

研修会報告

平成 30 年 1 月 14 日

文責：高瀬優太郎

研修会名：生物化学分析部門研修会

テーマ：「免疫血清検査の基礎とピットフォール」

開催日時：平成 30 年 1 月 13 日（土曜日）14：00 ～17：00

会場：東北大学医学部臨床中講堂

<プログラム>

【講演 1】免疫血清検査のピットフォール

富士レビオ株式会社営業学術グループ北村 由之先生

【講演 2】C 型肝炎検査の現状と課題-HCV 抗体検査の陽性結果の解釈を中心に-

オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社

C 型肝炎検査事業部秋山匡輝先生

【講演 3】免疫血清検査を行う上で知っておくべき異常反応への対応

東北大学病院診療技術部検査部門佐々木克幸技師

東北医科薬科大学病院検査部小堺利恵技師

生涯教育点数：専門 20 点

参加者 会員 30 名、賛助会員 12 名、非会員 2 名、講師 4 名（実務委員 1 名兼）、
学生 1 名、実務委員 4 名 計 52 名

【内容】

本研修会では、免疫血清検査の基礎とピットフォールを学び、日常業務においてピットフォールを発見する事ができ、その原因の解析による信頼性の高い結果を臨床に提供出来るようになることを目的としました。

講演 1 では、異常反応発見の糸口や測定前プロセスでのピットフォール、免疫血清検査のピットフォールについて富士レビオ株式会社の北村由之先生にご講演頂きました。免疫血清検査における異常反応の要因を試薬や検体、機器などの基本的な視点から学び、更に異常反応の解析方法も学ぶことで、異常反応についてより理解を深めることが出来ました。

講演 2 では、非 A 非 B 型肝炎から C 型肝炎となった背景や HCV 抗体検査とその解釈、今日の日常検査での課題をオーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社の秋山匡輝先生にご講演頂きました。HCV 抗体検査の解釈では、異なる試薬間で異なる検査結果がでること、抗体反応精査でも判定保留となるものがあること、抗体検査で陽性であっても RNA 検査では陰性となることもあること、以上のことから HCV 抗体検査に限らず感染症マーカーの検査結果の解釈の仕方の重要性をあらためて感じました。

講演 3 では、実際に日常業務であった異常反応を例に、測定方法の違いによる測定結果の違いや異常反応を発見した際の対処方法を東北大学病院の佐々木克幸先生と東北医科薬科大学病院の小堺利恵先生にご講演頂きました。実際にあった異常反応の例を聞くことで、

異常反応は珍しいものではなく、私たちが気付かずに見逃している可能性があると感じました。

これからの日常業務では、本研修会に参加して得た知識を生かして、異常反応を見逃さずに発見し、信頼性の高い結果を臨床に返すことができる力をつけていきたいと思います。